

# 一の宮巡拝

一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159  
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

## 第2回一の宮シンポジウム

### 「アメリカ・シアトル一の宮対話交流会&一の宮百景展」終了報告

昨年、奈良市で「第1回一の宮シンポジウム」を9月17日に開催して以来、1年ぶりにアメリカ・シアトル郊外のアメリカ椿大神社の会館で有志の方々により、第2回目のシンポジウムが9月10日に開催され無事終了いたしました。日本からは約30名の方々が参加され現地のアメリカ人との対話交流会が約3時間にわたり行われました。

また、シアトルから車で30分ほどの街にあるベルビューコミュニティー大学の構内では毎年開催される、イーストサイド日本祭りの会主催の「第10回秋まつり」に一の宮百景展と題して、絵画と写真展そしてビデオ上映を行いました(9月8～9日)。この秋まつりには現地のアメリカ人また日系2世、3世の人たち約1万人が参加して、日本の文化交流を行っています。イベントにはお茶、お花、武術、和太鼓など日本の伝統的な技が披露され2日間はまるで日本に居るようでした。百景展の会場には約200名の方々が来られ神道や仏教について熱心に質問がありスタッフの慣れない英語で対応いたしました。

10日の午後のシンポジウム・交流会に先立ち、早朝にはアメリカ椿大神社で朝拝また神社境内を

流れる清流で参加者が禊を行い、アメリカ西海岸における地球鎮魂平和祈願祭が神式と仏式で行われました。式典では今回の祭典に際しての請願文とご協賛いただいた方々のご芳名を奏上し厳粛にとどこおりなく終了いたしました。詳しくは後日会誌にてご報告いたします。

また特に今回シンポジウムにご出席、ご協力いただいた方々を次に記しまして、心より感謝申し上げる次第です。



アメリカ椿大神社にて記念撮影

アメリカ椿大神社権禰宜コウイチ・バツシ氏、イーストサイド日本祭りの会理事長トム・ブルック氏、克子ブルック氏、高野山蓮花院住職東山泰清氏、高野山中心光寺住職福井教順氏、伊勢国一の宮椿大神社宮司山本行恭氏、なお通訳には一の宮

巡拝会北海道ブロック世話人ダスティン・キッド氏にお願いしました。また、椿大神社の関係の方々蓮花院の皆様、中心光寺の信徒の方々、そして巡拝会会員の中瀬氏、高寺氏、河村氏、HISの田中氏などご協力いただいた関係者の皆様には絶大なる御礼を申し上げます。

一の宮巡拝会 代表世話人 関口行弘

入会を希望する方は下記のいずれかへご連絡ください。

#### 一の宮巡拝会事務局

〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 ファックス：072-791-5159

#### 一の宮巡拝会東京事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12(株)アドワーク内  
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135

一の宮巡拝会  
会員の店場

広場の頁は会員の皆様と創り上げて行きたいページです。今回は青森県、岩手県、宮城県、山形県の一の宮各1社を紹介させて頂きました。



岩木山神社重文の楼門



駒形神社正面入口の鳥居



駒形神社正面

背景写真：実りの稲穂と後方に鳥海山を望む



鹽竈神社東参道の中段に構える鳥居  
この先は神気が変わる



鹽竈神社唐門と怖面の守り狛右端



鳥海山大物忌神社・吹浦口の宮  
正面入口鳥居から参道、階段を登ると  
拝殿・本殿が座している



鳥海山大物忌神社・蕨岡口の宮  
入口の鳥居と楼門

巡 拝 の 声

梅雨の合間の御朱印旅(続き) (大阪府堺市 平野真知子)  
前回の「梅雨の合間の御朱印旅」から約2ヵ月後の8月17日、猛暑の中、主人の運転で富山方面へと車を走らせた。越中一の宮六社のうち五社を巡り、あと一社を明日に残して夕方、室堂の山荘に到着。以前と比べ浴室が大きく立派になっていてビックリ。しかも今回は個室が取れて助かる。夜になり時折雨音も。予報では明日は雨ということだったが……。翌朝、一面の霧の中(雨でなくて良かった)ゆっくり出発。こんな時は自由のきく二人旅がありがたい。久しぶりの山靴で、足許を気にしながら歩いているとオコジョ発見!因みに前回は雷鳥に遭遇した。本格的な登りの前に一の越山荘で一休み。生まれて初めての登山が、ここ



みくりが池から眺む立山(右端の山頂が峰本宮)

立山の雄山で、ツアーのしっぽについて登ってから7年が経つ。このところ以前にもまして体力に自信が持てなくなり不安だ。霧が、時々雨粒に変わる中、一步一步山頂を目指す。鳥居をくぐり峰本社の前に立てた時は、嬉しさよりも安堵感が大きかった。次のお祓いは天候の関係から、下の社

務所でと聞いていたが、親切な神職さんのお陰で、そのまま山頂に於てお祓いを受けることができ、疲れも吹飛ぶ。本当にありがとうございました。社務所で千年御朱印帳に書いて頂いた「登拝」の文字に感慨ひとしおだ。まだ、下りが待っているけど、ここはホッと一息タイム。前回はベンチでおしるこを食べながら遠くの山並を眺めたが、今回は売店

のストープの横でカップヌードルを食べ「ホッと一息」を実感。ゆっくり下山するうちに霧も晴れ、山荘で汗を流し、預けておいた荷物とともに今夜の宿であるホテルにチェックイン。ゆとりを持った日程のお陰で、雷鳥荘の天然温泉にも立ち寄れたし、夜は満天の星を堪能できた。そして最終日、19日は早朝のトンネルバスで大観峰へ向かう。できれば峰本社で御来光を拝みたかったけれど……。夜明け前のバラ色の雲の下、冷たい空気に震えながら日の出を待つ。5時16分、まばゆい御来光に手を合わせこの場にいられる喜びをかみしめた。一巡目の時は気づかなかったこともいろいろ気づかされた今回の御朱印旅だった。いずれ千年御朱印帳が完成しても旅はまだまだ続く。

小説「全国一の宮」調元祖

# 橘 三喜 (第三十一回)

郡 順史・作 梶 鮎太・画

その夜一晩中良枝は輾転反側して、平戸に戻る件について考えぬいたようである。それはむろん三喜も知っていた。が彼は一言も口をはさまなかった。いくら夫婦とはいえ彼女のこれからの人生にかかわる問題だ、自分で考え決定し、無理な希望でなければできるだけ叶えてやりたいと思っているからである。

翌朝、朝食が済んでから良枝のほうから切り出した。「一の宮様のご巡拝は、三年から五年くらいかかる、と仰せられていましたが、もっと速く、或いはもっと年月がかかりませんか」

上手な切り出し方であった。頭脳が明敏なあかしであろう。

「殿にも申し上げたが、正直なところ僕にも判らん。三年か、五年——か」

ここで良枝は須臾顔を伏せて考えていたが、思い切ってといった感じで、

「江戸にいて、たとえばお屋敷を出て、附近の町家を借りお帰りをお待ちする、という法はかなえられませぬでしょうか」

と訊いてきた。

「なるほど、それも一つの方法であろう。但しお上がお許し下されば、だが。しかしおぬしは、それほどに故郷に帰りたくないのか」

「いえ、故郷に帰りたくないのではございません。江戸での今の暮らしぶりが性に合っているのでございましょう。子供たちとも離れたくございませんし——」

要するに良枝の希望は、江戸に執着して生まれ故郷に帰りたくないのではなく、永年続けてきた子供相手の学習塾というより子供そのものに愛着を持ち、楽しみと生甲斐を感じている、という事なのである。そこには自分の子供を持てなかった、という女というより人妻ならではの寂しさや悲しみが胸奥に在るのかもしれない。

三喜はなんとしても妻のこのささやかな望みを達してやりたい、と思った。

それには幾つかの難しい隘路をくぐり抜けなければならない。

まず江戸屋敷を抜け出るには藩士である俸禄を返上し、一介の浪士にならなければならない。三喜は僅かではあるが、主君の恩情をいただいて七十石という禄を頂戴している。それを返上する事は、諸國巡拝に出達する際にと、考えていた。従って返上するのは予定のうちである故かまわぬとしても、問題はその間の妻の生活費である。俸禄を返上すれば良枝は無収入になる。それゆえ兄、親族の多数いる故郷平戸へ、とすすめたのであるが。

次に、果して藩庁が、妻が藩邸を出て危険の多い町屋住いを許可するか、どうか。事件が起これば最終的に藩の名が出、藩の責任が問われかねないからである。

そしてもう一つ。藩士の子供たちが、これまで通り藩邸外へ移った良枝の所に学びに来てくれるか、親、藩が許してくれるか。これが一番小さいようで難しい問題のように思える。

三喜は、神棚の前で一心不乱に手を合わせている妻の願いを背に、吉崎左兵衛という留守居役を訪れた。

留守居役は現今で言う外交官ならびに屋敷内取り締まりといった職務であるが、吉崎は三喜と同年輩で日頃から親交もあったので、まず訪ねたのだ。

果して吉崎は、三喜の全国一の宮巡拝を、「大事業だ。男子一代の名誉の快拳」などと称賛した上、三喜の話を引き、

「よろしい。ご希望に副うように動いてみましょう」

と快諾してくれた。

そしてその事はうまくいった。あまつさえ吉崎は、お屋敷近くの鳥越町に畳二間と六畳、四畳半という手頃な借家をも世話してくれ、更には勉学の子供たちをも従前通り習いに通わせる、と約束してくれたのであった。

当然、良枝の喜ぶこと限りなかった。

これで三喜も安心して島上平之進を供ない、平戸、そして壱岐へと旅立てたのである。

(つづく)



**最終連絡**

**中部・関東・東北ブロック  
合同交流会及び静岡県一の宮四社巡拝  
参加申し込みがまだの方はお早めに。**

**実施日** 平成十九年十一月二十四日(土)～二十五日(日)一泊二日

**集落地** 東海道新幹線 三島駅北口(ロータリー)

**集合時間** 二十四日(土) 午前十二時三十分 ※昼食は済ませて参加ください。

**スケジュール**

**第一日目** 東海道新幹線三島駅北口集合(バス)→伊豆国一の宮・三嶋大社十二時～十二時四十分(正式参拝)→(バス)→駿河国一の宮・富士山本宮浅間大社十四時(正式参拝)十四時三十分及び合同交流会・講演→宿泊先「かめや」懇親会

**第二日目** 浅間大社早朝自由参拝→七時から朝食→八時出発(バス・車中にて研修「神宮お木曳き」池田様講演と外宮領陸奥全神領区DVD)→遠江国一の宮・事任八幡宮(正式参拝)→バス・車中にて昼食→遠江国一の宮・小國神社(正式参拝)→東海道新幹線浜松駅・解散

**参加費** 二万二千元 一泊二食・玉串料・直会・懇親会料、観光バス・雑費含む

**開催地** 駿河国一の宮・富士山本宮浅間大社 参集殿

**宿泊地** 『かめや』富士宮市大宮町 ☎〇五四四二七〇〇六一

**解散地** 東海道新幹線 浜松駅 十六時ごろ

**交流会プログラム**

- 一 国家斉唱・敬神生活の綱領……………全 員
- 一 一の宮巡拝会代表世話人挨拶……………関口 行弘様
- 一 一〇講演(二十四日) 富士山本宮浅間大社宮司……………渡邊 新先生
- 一 一〇講演(二十四日) 巡拝会名誉顧問「一の宮の神様」……………齋藤 盛之先生
- 一 一〇講演(二十五日) 木曾上松・池田木材(株)専務……………池田 聡寿先生
- 一 参加者自己紹介・会務報告・全体ミーティング宿舎移動

**お申し込み**

最終締切日を十月末日と致しましたので申込がまだの方はお早目にファックス又はお電話で東京事務局までお申し込みください。

**参加申し込み者は同封の振込み用紙にて十一月九日までに御振込みくださいます様 お願いいたします。**

**第二十五回 諸国一の宮めぐり**

朝日旅行 | 信濃・上野

**出発日** 二〇〇七年十一月十四日(水)一泊二日  
旅行代金 おひとり様六万五千円(二人一室)

食事朝一・昼二・夕二付き  
集 合 JR大阪駅八時四十分集合(予定)  
JR京都駅乗車九時二十五分(予定)

**コース**

①大阪(八時五十分)→京都(九時二十五分)→塩尻→諏訪大社下社・秋宮(信濃国一の宮)→春宮(信濃国一の宮)→諏訪大社上社・本宮(信濃国一の宮)→前宮(信濃国一の宮)→上田東急イン泊  
②→軽井沢(旧軽井沢散策)→貫前神社(上野国一の宮)→高崎→東京→京都→大阪(二十二時二分)

**電話** 〇六一六二二二一五三三  
受付時間 九時三十分～十七時三十分  
土・日・祝日は休ませて頂きます。

旅行企画・実施 株式会社朝日旅行  
〒五三〇一〇〇五  
大阪府大阪市北区中之島一三十八 新朝日ビル八階

**新・御朱印帳完成**

好評の出雲千年和紙(斐伊川和紙)二万五千円のご朱印帳につづき、第三版として四国和紙・楮笹ヶ峰(高知県)の和紙を使用して新規に普及版を製作いたしました。出雲和紙同様、軽くて携帯に便利(二五〇g)、墨書きも吸い込みが良く速乾性にも優れ好評です。  
定価七千円(送料別)



四国和紙・楮笹ヶ峰(高知県)の和紙の普及版  
定価7,000円(送料別)



出雲千年和紙(斐伊川和紙)  
定価15,000円(送料別)

ご購入希望者は東京事務局まで

**一の宮巡拝会  
入会申し込み受付中!**

数千年の昔からご鎮座する諸国の一の宮。そこには癒しの森が広がり漲る息吹と生気が今でも聖地として悠久の昔から今日まで連綿と受け継がれて来ました。日本人の叡智と日本人の心の再発見の場となる一の宮とご神縁を結びましょう。全国一〇八社を巡拝しお互いの情報交換を行う本会には是非ご入会ください。(年会費三〇〇〇円) ご入会の方には小冊子「全国一の宮巡拝のすすめ」頒価三〇〇円を無料配布いたします。入会などお問い合わせは各事務局へご連絡ください。

**一の宮巡拝会事務局 創房関宮(有)内**

〒六六六〇二二  
兵庫県川西市大和東一十三  
電話 〇七二七九一五二五八  
FAX 〇七二七九一五二五九

**一の宮巡拝会東京事務局(株)アドワーク内**

〒二二一〇〇五五  
東京都台東区三筋一十二  
電話 〇三三五八三三三九〇  
FAX 〇三三三八六五二二三五

**入会金及び会費について**

●一般維持会員 年会費 三〇〇〇円  
賛助会員 一口二〇〇〇円(何口でも可)  
寄付金 お志し

**会費等お振込み先**

郵便振替(大阪)〇〇九九〇一五八二五五